

2022 年度第 2 回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：令和 4 年 11 月 26 日（土）18：00～20：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：大原主査、藤田委員、北原委員、内山委員、金子委員、佐野委員、矢野委員、
小田委員、高田アドバイザー、斎藤アドバイザー、小野アドバイザー、光井アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. **SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想**について、産学連携によるイノベーション創出の重要性・緊急性に関する資料が提示され検討された。
 - ・ 日本は世界の中で多くの分野で危機的な状況にあり、生涯に亘って未知の時代を切り拓く能力と気概を備えた人材の育成が求められており、学生一人ひとりが新しい価値の創造に立ち向かえるよう、日本社会全体で学びを支援する仕組みが必要。
 - ・ 問題解決に向けて自分で課題を設定し、多面的・多角的に解決策を構想・検証する訓練を通じて、新しい価値につなげる教育には、学びのための「共創活動の拠点」を設け、新たな価値創造に立ち向かう教育のオープン・イノベーションの仕組みが不可欠。
 - ・ データサイエンス・AI 専門人材育成関連のスキルを活用して、価値ある情報・データを見出し、推論、社会・企業関係者の知見の組合せ、発想・価値創造の体験ができる「共創活動の場」として、課題探求解決型 PBL の推進・普及が急がれる。
2. 大学教育カリキュラムでの位置づけと運営体制について資料が提示され検討された。
 - ・ **SDGs** 解決に問題意識を持つ学修意欲のある学生を対象に、社会・企業等と連携した共創活動の学びとするためには、副専攻制度を導入して PBL の特別演習授業などとする事が望まれる。
 - ・ マッチングプラットフォームの構築・運営は私情協で提供し、マッチング後の共創活動プラットフォームの構築・運営は当事者間で申し合わせ・合意形成して進めることにする。
 - ・ 当事者間合意形成の支援、コミュニケーションツール利用のルール、秘密保持の契約、誓約書、申し合わせなど、私情協として検討事項のガイドラインを策定する必要がある。
3. パイロットプランの骨格について資料が提示され検討された。
 - ・ 共創活動「SDGs サイバーフォーラムコモンズ」事業の概要は、産学連携によるイノベーション創出の重要性・緊急性、大学教育カリキュラムでの位置づけ、期待される効果を整理する。
 - ・ パイロット事業化の実施時期は、令和 6～7 年度に実施を予定し、令和 5 年度を実施準備期間とする。
 - ・ 共創活動のパイロット事業化に参加する大学・企業等組織は、大学で文系 1 校、工学系 1 校、医療系 1 校と、企業等の民間団体・企業を選定する。
 - ・ 参加大学学生チームは、2 年生から 4 年生を対象にゼミナールでの希望学生または教員が推薦する学生とする。
 - ・ マッチング・発表・評価のプラットフォーム（メタバース環境含む）と、マッチング後の共創活動のプラットフォーム（参加大学・企業の協力）についての構築・運営体制・費用負担は、令和 5 年度に準備を予定する。
 - ・ メタバースなどデジタルツール利用ルールのガイドラインを整備する。
4. 以上の項目について委員の意見
 - ・ 問題は、昨年の交流会で 4 割程度の関心しかなく、例えば、先行モデルとしてイノベーションに繋がるような共創の成功事例を出すのが分かりやすい。そのためには、仕様書段

階で魅力あるものを示す必要があり、コモンズの具体的イメージを示さないと参加しないのではないかと。

- ・ デジタル田園都市構想の例では、一極集中になっており、地方をデジタルの活用で盛り上げることで、課題は、人材が東京に集中しているため、各拠点にデジタル人材を育てる必要があり、日本がデジタル産業でイノベーションを起こすには、文系の力で盛り立てて行きたい、そのために支援する団体がある。
- ・ 学生が参画するモチベーションを上げるためには、コミュニティなど横のつながりができることも考えられる。
- ・ 文系教員ではグループ的な取組みが少なく、具体的にカリキュラムや取組みとして設置するためパイロット的に実施できるか否か、入りやすくするための工夫が必要。大学では、仕様書・要望書のような資料をもって検討することになり、各大学への声かけはまとめて行ってからの段階となる。
- ・ 現在の学生は、環境保全や社会配慮など社会に貢献したいという意識が高いことから、自分と社会が繋がっていることを常に意識する学生が SDGs をテーマに自分たちでどのようにしたら問題解決に繋がるか、大学や社会が学生のやりたいことを応援・支援することによって前進するのではないかと。
- ・ 今の日本の現実では、SDGs より人材が大問題であり、教育改革など実社会の身近な課題をテーマとすることも考えられるが、学生は、SDGs に対する会社の事業戦略により就職先を選ぶところまで来ている。学生の意識は、持続可能や長い時間軸でものを見るようになっており、SDGs のテーマで良かったと考える。SDGs と目の前の問題とのつながりは、企業・社会とのマッチングにより気付くことでもあり、今までの学びや授業を見直す切掛けになるのではないかと。

V. その他(今後のスケジュール)

- ・ 次回の分科会は、第3回 12月22日 17時、第4回 1月26日 17時に開催することと、併せて、第2回小委員会 12月10日 17時、第3回小委員会 1月14日 10時に開催し、研究を進めることにしている。
- ・ なお、次回以降の検討事項として下記の検討を進めることにしている。

第3回

マッチングの仕組み

マッチングサイトの運営主体、費用負担

共創活動プラットフォームの仕組み、運営主体、費用負担

第4回

大学のオープンバッジ発行の支援

本協会による企業等関係者に対する社会的称号の付与

「SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想」のパイロットプラン案

産学連携人材ニーズ交流会

「SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想」のパイロットプラン案を報告